

労働者協同組合法  
成立記念作品

人は人のために働いて  
支え合い、  
人のために死ぬ。  
結局はそれ以上でも  
それ以下でもない。

これは人間の仕事である。

中村哲は問う——“働く”とは何か、“仕事”とは何か、そして“平和”とは！

2024年10月5日(土)新潟市万代市民会館ホールにて上映  
午前の部：11時～ 午後の部：14時～ (各30分前より受付開始)

# 医師中村哲の 仕事・働く ということ

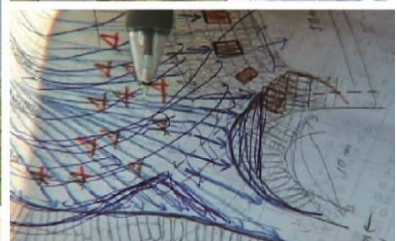
語り◎室井滋 朗読◎塚本晋也

写真・映像提供◎ベシヤール会/PM S  
企画・提供◎日本労働者協同組合(ワーカーズユニオン)連合会センター事業団  
一般社団法人日本社会連帯機構  
製作◎日本電波ニュース社 HD/16:9/カラー/47分



医師中村哲の  
仕事・働く  
ということ

アフガニスタンとパキスタンで、  
病や戦乱、そして干ばつに  
苦しむ人々のために  
35年にわたり  
活動を続けた男がいた。



1984年に医療支援をスタートし、干ばつ対策用の用水路建設、農村復興へと活動を広げた中村哲医師、その歩みは35年に及んだ。中村医師はまず現地の言葉を覚え、現地の人々との対話を通じ、信頼を重ねていく。「私たちに確乎とした援助哲学があるわけではないが唯一譲れぬ一線は『現地の人々の立場に立ち、現地の文化や価値観を尊重し、現地のために働くこと』である」用水路建設では自ら設計図を引き、重機を運転し、泥にまみれて一緒に作業する。その作業には貧しさゆえにタリバンに参加していた農民も参加していた。「己が何のために生きているかと問うことは徒勞である。人は人のために働いて支え合い、人のために死ぬ。



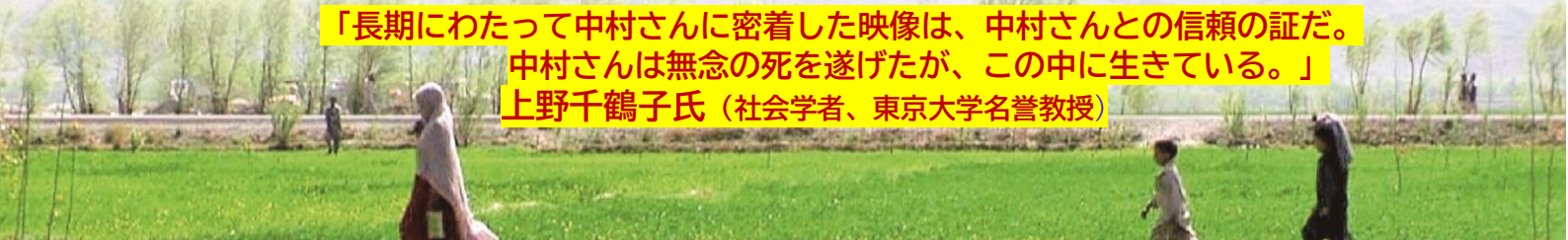
そこに生じる喜怒哀楽に翻弄されながらも、結局はそれ以上でもそれ以下でもない」荒れ果てた大地は蘇り、農作物は実り、65万人の生活を支えている。

親子で収穫し、家族で食事をする風景は眩しい。

中村医師は言う「これは人間の仕事である」



「長期にわたって中村さんに密着した映像は、中村さんとの信頼の証だ。中村さんは無念の死を遂げたが、この中に生きている。」  
上野千鶴子氏（社会学者、東京大学名誉教授）



アフタートーク ～地域で活動する中で新潟に何があったらいいのかについて話し合います～

川上文菜さん（東区社会福祉協議会副主査・東区支えあいのしくみづくり推進員）

齋藤紀美子（労働者協同組合ワーカーズコープごまのたね代表）

コーディネーター/川原隆哲（にいがた協同ネット副代表）

午前・午後 共に同じ内容です

【鑑賞料】 大人 1,000円 18歳（高校生）以下 無料

こちらからでも受け付けています→



【申込方法】 先着申込制自由席 定員各250名 ご希望の方は前日までにお申し込みをお願い致します。

FAX 下記用紙に記入（025-288-5942） / 電話（025-241-3117） / メール gomanotane@hotmail.com

お名前		観覧日	10月5日(土)	<input type="checkbox"/> 11:00～	<input type="checkbox"/> 14:00～
所属・お住まいの地域		年代	代	他参加者数	
電話番号	-	mail	@		

【お問い合わせ先】

労働者協同組合ワーカーズコープごまのたね ☎(025-241-3117)・FAX(025-288-5942)

主催：労働者協同組合 ワーカーズコープごまのたね 共催：（一社）日本社会連帯機構

後援：新潟市・新潟市教育委員会・社会福祉法人新潟市社会福祉協議会